

北海道教育委員会会議審議概要（令和5年第24回）

1 公開案件の審議

(1) 報告1 令和5年度における教職の魅力啓発の取組について

ア 説明員 松橋教職員育成課長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【松橋教職員育成課長】

資料3ページを御覧ください。道教委では、若い方々に教員を目指していただけるよう、早い段階から、教員や子供たちとの交流を通して、教職のやりがいを実感したり、学校現場の実践に直接触れたりすることができる取組を進めています。左側が高校生、右側が大学生への取組で、それぞれ、学習会型、実習型、出前講座型の取組を行っています。赤色の今年度の実施学校数や人数は、札幌市立や私立の高校、私立大学などに参加を呼び掛けるとともに、これまで参加した高校生や大学生の口コミで評判が広がっていることなどにより、事業を拡充することができています。赤く「NEW」とお示ししているところが、今年度、新たに実施する、又は実施した取組で、包括連携協定を締結する北海道教育大学や北海道文教大学の大学生の要望などをお聞きし、大学生が道教委の指導主事と授業づくりの基本を学ぶ「教志ゼミ」、大学生をボランティアとして学校の要望に応じて派遣する「つながるサポート」、教員養成大学のオープンキャンパスに参加する高校生に向けた出前講座を立ち上げました。本日は、この中から、高校生のインターンシップと、大学生の「草の根教育実習」について、実際に参加した生徒や学生の声をお聞きいただきたいと思います。

4ページを御覧ください。高校生のインターンシップについては、高校生に小・中学校での職場体験を通して、子供の成長に関わる楽しさを感じてもらうもので、毎年度、90パーセント以上の高校生から「有意義だった」との声を頂いています。右下のとおり、道民の方々にも取組を知っていただくため、実際の様子をSNSでも発信しています。

本日は、釧路市立愛国小学校でインターンシップを行った、釧路明輝高校の2人の生徒さんの声を聞いていただきます。1人目は1年生の女子生徒、2人目は3年生の男子生徒となります。

(動画1を視聴)

続いて、5ページを御覧ください。大学生の「草の根教育実習」については、大学生に特色ある小規模校実習を通して、教職の魅力ややりがいを発見していただくもので、こちらも、参加した90パーセント以上の大学生から、教職への意欲が高まったなどの声を頂いています。本日は、後志管内の留寿都小学校で「草の根教育実習」に参加した、北海道文教大学3年生の学生さんの声をお聞きいただきたいと思います。

(動画2を視聴)

参加者の動画を見ていただきましたが、それぞれの事業に参加した高校生や大学生からは、「参加してよかった」、「教職への意欲が高まった」との声に加え、「友人にも是非勧めたい」、「もっともっとPRして、多くの人に同じ体験をしてほしい」との声も頂いており、それぞれの取組が、教職の魅力啓発につながっているのではないかと考えています。

道教委としても、これまで以上に、教職の魅力啓発に係る取組について、ホームページやSNS等を活用した情報発信に努め、より若い方々に北海道の教員を目指してもらおう取組を進めていきます。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

高校生をも巻き込む実習の活動は素晴らしいとっていて、やはり教員になる意欲を持って大学に進学してもらいたいと思いますし、更に大学でも継続して、このように現場を見られれば、新任の先生であっても、他の先生よりも経験などの厚みが増すのかなと思います。是非継続してほしいと思います。

1点お聞きしたいのですが、アンケートの満足度は90パーセント以上というのがあるのですけれども、10パーセントの声の中から改善できそうな、今後生かせそうなものがあれば教えてください。

【松橋教職員育成課長】

「草の根教育実習」については、不満というよりも、もっと期間を長く体験したいという意見や、それに付随して、もっといろいろな体験をしたかった、地域ともっと関わりたかった、もっと子供の成長を見たかったなど、総じて前向きな意見として「もっとやりたかった」ということで、90パーセントとなっています。

【青山委員】

期間は1週間くらいですか。

【松橋教職員育成課長】

学生によって違うのですが、3日間から5日間までの期間という形で実施しています。

【青山委員】

それは良い感想ですね。期間以外の他の意見はなかったですか。

【松橋教職員育成課長】

単位化されていないため、やはり授業を欠席することになってしまうので、大学関係者とお話して、学生が行きやすいのは大学の夏休み中の9月であり、小・中学校は授業期間であることから、そこが一番、大学側も行かせやすいという話を聞きました。次年度からは、そこをできるだけ厚く実習できるように、スケジュールを早めながら取り組みたいと思います。

【青山委員】

大学だと2月くらいもお休みで行けるのではないかと思いますので、年2回トライできる学生がいたら良いと思いました。

【川端委員】

行った生徒たちの声を聞くと、高校1年生だと最近まで中学生でしたし、小・中学生の兄弟がいるという子もいると思いますが、高校生になると随分大人になっていて、中学生を見て、もう一度自分自身を

振り返って感じるものがあって、それが教員になってこういうことがしたいと想像できているのがいいなと思いました。

一つ質問なのですが、「NEW」となっている「学生ボランティアつながるサポート」という取組ですが、具体的にはどのようなボランティア活動になるのでしょうか。

【松橋教職員育成課長】

冬休み中に実施する学習会のサポートであったり、3学期の放課後学習会のサポートであったり、そのほか、部活動のサポートなど、いろいろと各学校に応じて、是非ここはサポートしていただきたいという内容がありますので、その内容を学生にお知らせし、学生が希望するものに参加するための橋渡しをするような取組をこれから進めようとしています。

【大鐘委員】

これまで教員の養成段階としては、大学生から始まるという形だったのですが、数年前から高校生まで広げていることから、高校生から養成段階に入っていると捉えて良いのではないかと考えています。資料に書いてあるように、教職志望を喚起して、大学生になって志望を維持し、高めていくという接続・流れができつつあるのではないかと考えています。

例えば「草の根教育実習」などではリピーターになっている学生も少なくないのではないかと考えると、やはり取組と取組を結び付けて、いかに持続させていくかという仕組みも必要になってくるのではないかと考えていますので、より発展的な仕組みを作っていただきたいと思います。かなり成果が上がっているのではないかと期待しています。

【清水委員】

私からは感想になりますが、この取組は教職の魅力啓発ということなのですけれども、それにとどまらない教育の本質的な広がりがあるのではないかと考えました。学校で習っている各科目、つまり自分たちが学んでいること、それと実社会とのつながり、これを意識させると、生徒たちの知的好奇心は非常に刺激されて、良い効果が生まれる

のだという非常に面白い、興味深い例だと思いました。とにかく受験勉強や資格勉強に偏りがちと言われている教育ですが、例えば数学にしても、実社会とのつながりなどについて少しルートを作ってあげると、子供たちはこれほど積極的に楽しく学ぶのだということは非常に驚きでもあります。これは、今言われている主体的な学びや探究的な学びという教育の本質的なところにつながっていくような取組ではないかと考えています。大学の方では単位化されていないということですが、こういった活動が教育の内容そのものを構成してくるのではないかと印象を持ちました。

【渡辺委員】

最初の方で、青山委員からアンケート満足度について、満足されていない10パーセントの方の話がありましたが、その10パーセントの中には、「もっと地域とつながりたかった」という意見があったと先ほど伺いましたけれども、この取組自体を高校生の皆さんがどのようなカリキュラムで実施していきたいかということがその10パーセントの中に恐らく詰まっていると思いますので、先ほど清水委員がおっしゃったような探究学習の視点も含めて、もっと生徒たちの「やりたい」というところをすくい上げ、カリキュラムを作り直していくことを考えても良いのではないかと思います。今が悪いというわけではなく、そのように発展させていただいたらよろしいのではないかと思います。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 議案第1号 北海道立高等学校教育課程編成基準の一部改正について

ア 説明員 相馬高校教育課長

イ 結論 原案どおり決定

ウ 審議内容

【相馬高校教育課長】

高等学校の教育課程は、校長が、教育基本法等の法令及び高等学校学習指導要領に基づき編成・実施するものですが、学習指導要領に定められた事項を円滑に実施するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、その基本的事項について、教育委員会決定として「北海道立高等学校教育課程編成基準」を定めています。この基準には、学科の目標や教科・科目の標準単位数など、高等学校が教育課程を編成する上で必要な事項を定めているところです。

資料2ページの「概要」を御覧ください。この度の改正は、令和6年(2024年)4月1日に大樹高校、釧路湖陵高校及び釧路商業高校で学科転換を行い、新たな学科を設置することを受け、その新学科の目標を定めるために行うものです。学科の目標を新たに定める学科は、普通教育を主とする学科として、大樹高校に新設する「地域探究科」、釧路湖陵高校に新設する「文理探究科」、商業に関する学科として、釧路商業高校に新設する「会計マネジメント科」及び「情報マネジメント科」です。

なお、普通教育を主とする学科については、国の制度改正により、令和4年度(2022年度)から「普通科」以外の学科を設置することが可能となったことから、この度、「地域探究科」と「文理探究科」を新設していますが、従来の「普通科」について、この基準で目標を定めていなかったため、今回の一部改正に伴い、新たに定めることとしました。

一部改正の内容は、3ページの別記に記載していますが、具体的な改正箇所について、4ページからの「新旧対照表」を基に説明します。「編成基準」の別記1の1に、新たに「普通教育を主とする学科の目標」を設け、「(1) 普通科」、「(2) 地域探究科」、「(3) 文理探究科」の各号を追加しています。また、「4 商業に関する学科の目標」に、「(12) 会計マネジメント科」、「(17) 情報マネジメント科」を追加し、「9

理数に関する学科の目標」に、「(2) 理数探究科」を追加しています。

最後に、新設する各学科で予定されている学習内容について、簡単に説明します。「地域探究科」では、地域社会に関する学校設定科目を開設し、大学と連携した学習や、体験型の授業、フィールドワークなどを通して、生徒自身が関心を持つ地域課題についての探究学習が予定されています。「文理探究科」では、探究に必要な知識やスキルを高める学校設定科目を開設し、大学との連携による「出前授業」、「講演会」等の実施、企業と連携した合同研究や商品開発、自治体等と連携した施策改善に向けた提言等の学習が予定されています。「会計マネジメント科」では、財務諸表を分析し、会計情報を提供・活用できる力を身に付けるため、会計処理や、収支計画の作成などの実践的な学習が予定されています。「情報マネジメント科」では、ビジネスに関する情報をICTによって適切に活用できる能力を身に付けるため、プログラミングやWeb技術などの実践的な学習が予定されています。「理数探究科」では、探究に必要な知識やスキルを高める学校設定科目において、大学教員などから指導を受けながら、課題発見のための学習や探究のプロセスを繰り返す質の高い探究学習が予定されています。

なお、施行日は、令和6年(2024年)4月1日とする予定です。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

感想になりますが、私が中高生のときは、やはり高校となると普通科が当たり前で、「普通って何だろう」と思いながら勉強していたのですけれども、これだけたくさん専門に学べる科目が増えたことによって、学校の魅力がますます伝わりやすくなったのではないかと思います。子供も選ぶ中で、前向きに、意欲的に学ぶようになるのではないかなと思いました。非常にうれしく、有り難く思います。

【川端委員】

青山委員がおっしゃったように、総合的に学びながらも、どこかに

特化して学ぶということが、若い世代から進んでいくのかなと思います。一方で、生徒たちは自分が何をしたいかまだまだ分からないままで、年齢相応の判断力が育っていない部分もありますので、うまくかみ合っていくと非常に良い学びにつながるのではないかと思います。

一つ要望として、中学生が高校を選ぶ際に、先ほど御説明いただいたような学科の普通科との違いや、単位制のことなど、私たちが行っている魅力ある高校づくりを理解いただけるような早見表を作成するなどして見せ方を是非今一度ブラッシュアップしていただけると、生徒が進路を考えるときに分かりやすいのではないかと思います。会計なども昔は簿記ができれば良かったのですが、今ですとパソコンの中でそれをどうひもとして、プログラミングして効率良く仕事をするかというところまで新入社員は求められてきます。ですから、このように総合的に学べるということは非常に良いことだと思いますので、そういう魅力をどのように表現していくかといったところを早急に取り組んでいただきたいと思います。

【大鐘委員】

新しい学科のそれぞれの目標について、今求められる学びの在り方や方向性について、適切に表現が込められており、分かりやすく、無駄なく、過不足なく表現されていると感じました。

一方で、二つほど質問ですが、地域探究科と文理探究科の目標の中に「探究的な学びを通じて」とそれぞれ出てきます。それに対して、理数探究科の方で「探究的な学び」というのがなく、「総合知」を活用しながら」となっています。これを対比して捉えると、例えば釧路湖陵高校では、普通科と理数科がそれぞれ探究科となりますので、普通科の方では「探究的な学び」というものが入って、理数科の方では「総合知」が入ってくるというのが大きなポイントになるのかなと思うのですが、この理数探究科の「総合知」という概念をどのように捉えれば良いのか、そこに理数探究科の方向性というものが込められていると理解できると思うのですけれども、「総合知」というものをどのように理解すれば良いのかというのが一つ目の質問です。

それから、もう一つは、地域探究科の目標で「地域社会が有する課題の合理的かつ適切な解決方法を構想し」と書いてありますが、「適切な解決方法を構想し」というのは、非常に理解しやすい目標になると思うのですが、「合理的」という辺りにはどのような学びの在り方を込められているのかというのが二つ目の質問です。それぞれ教えていただければと思います。

【相馬高校教育課長】

まず理数探究科の「総合知」についてですが、参考にさせていただいたのが、令和3年(2021年)3月に閣議決定されました「科学技術・イノベーション基本計画」になります。その中で「総合知」を活用して、「人間や社会の総合的理解と課題解決に資する」ことに取り組むことが言われており、理数探究の中でそういった「総合知」を活用しながら現代的な諸課題の分析や解決に必要な資質・能力を育成するという、正に「探究的な学び」を通してということを「総合知」という言葉で表現したところです。

【大鐘委員】

最初の説明で「質の高い」ということをおっしゃっていましたので、この「探究的な学び」を少しランクアップさせて、「総合知」というところに高めて表現したものと理解しました。

【相馬高校教育課長】

地域探究科の「合理的」というところについては、地域探究科では地域や社会の未来を担う人材を育成することとしており、学科の特色等に応じた学校設定科目を2単位以上履修させ、総合的な探究の時間と合わせて6単位履修することとしているところですが、具体的には、問いを立てる、情報を収集するといった探究に必要な資質・能力を身に付けるための授業を行うこととしており、そういったところで、「合理的」に課題を解決し、適切な解決方法を構想していくということを考えて取り組むこととしています。その際には、身に付けた資質・能力を発揮するために地元企業への訪問調査やフィールドワーク又は地元の議会との協力をもって高校生議会などで地元に対して提言するな

どの取組を行うということを想定しているところです。

【大鐘委員】

「合理的」というのは、探究的な学びのプロセスとつながっていくものと理解しました。

【渡辺委員】

高校を受検するときあるいは進学するとき、これらの科を生徒自身が選んで入っていくことになると思うのですが、自分の学生時代を考えて少し怖いと思うのは、自分が果たして地域探究科に行つてやっていけるような資質・能力があるのかといったことや、あるいは理数探究科でやっていけるような資質・能力があるかどうかといったことについて、かなり不安に感じながら入っていく生徒もいらっしゃるのではないかとということです。

例えばの話になりますが、対策として二つ考えていただきたいことがあります。一つは、入学した後、思うような自己実現がその学科においてできなかった場合に別の学科に入っていけるような、やり直しのようなことが実質的にできるようなところがあった方が良いのではないかとということです。自分の学生時代で考えると、高校で理科は物理・化学・生物・地学とありましたが、物理を選んだけれども難しくてうまくいかなかった、地学にすれば良かったといったことがあるなど、後悔がある方はやはり、いらっしゃると思います。探究に関する学科をせっかく作っているのですから、乗り入れのような、自分に最適な学びができるようなシステムがあっても良いのではないかと思います。

それからもう一つは、中学校の先生方の進路指導がとても重要になってくるのではないかと思います。中学校の先生方に生徒に合った学科を薦めてもらうなど、生徒が相談できるような体制が今よりも深く必要になるのではないかと考えました。

【倉本教育長】

先ほどの川端委員の発言とも関係する部分もあろうかと思いますが、特に来年の4月からスタートする釧路湖陵高校と大樹高校については、

これまでも地域の中学校にも保護者も含めて、新しい学科の改正について、丁寧に説明してきていますので、今後、更に新しい学科の設置を検討する際には、しっかりと理解していただくことも含めて丁寧に対応していきたいと思えます。

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、原案どおり決定したいと思います。よろしいですか。

《委員了承》

【倉本教育長】

それでは、この件は決定します。